



RAMBLAS PRESS RELEASE

2026 年 7 月 11 日

ELMS 第3戦イモラ、波乱のレースの中、佐藤万璃音はミスなく攻め切り、今季初の3位表彰台獲得！



2023 年シーズンよりヨーロッパ・ル・マン・シリーズ (ELMS) に挑戦を続けている佐藤万璃音 (UNITED AUTOSPORTS USA 所属 26 歳) が、7 月 3 日～5 日にイタリア、イモラ。サーキットで開催された 2026 年 ELMS 第 3 戦「4 HOURS OF IMOLA」において LMP2・PRO/AM (プロ・アマ) クラスで 3 位表彰台を獲得いたしました。

フリー走行 1 回目ではオリバー・ジャービス選手が 1 分 32 秒 703 をマークしていましたが、予選はルールによってブロンズドライバーのダニエル・シュナイダー選手がアタックします。フリー走行 2 回目には、チームは合計 42 周をこなして 1 分 33 秒 622 をマークしていました。今シーズンは開幕戦以来、ストレートスピードに伸びが無く、エンジン

が原因なのか、マシンのセットアップが原因なのか、いまひとつはっきりしない不安定な状況が続いています。ここイモラでもやはり症状に改善は見られず、いまひとつペースが上がられません。チームは予選から苦しい戦いを強いられることを予想していました。

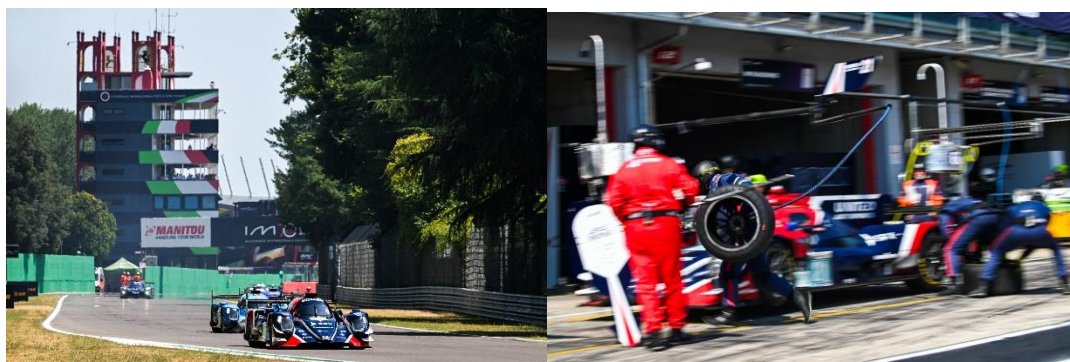
ダニエル・シュナイダー選手は、ブロンズドライバーのみのセッションでは、15周をこなして1分35秒649をマーク。前戦にも増して良い走りを見せていたダニエル・シュナイダー選手でしたが、予選でもうまくセクタータイムをまとめ、1分34秒964で9番手グリッドを確保しました。

レースのスターティングドライバーもダニエル・シュナイダー選手が務め、4時間耐久レースはスタートしました。LMP2、LMP2-PRO/AM、LMP3、LMGT3の4カテゴリー47台が混走するレースです。佐藤万璃音がエントリーするLMP2-PRO/AMクラスは、実際のサーキット上ではライバルのみならず、同じ車両を使用するLMP2クラスのプロドライバーたちとも戦わねばなりません。

今回のレースも荒れた展開となりました。気温が高く、路面温度も上昇したことによってタイヤに厳しいレースとなったからです。サーキットの問題ではないのですが、タイヤがオーバーヒートすることによって、プロフェッショナルドライバーですら単独コースアウトするような状況でした。

チームはこのレースに対し、クリーンに走り抜いて攻めのレースを戦う戦略です。好スタートを切ったダニエル・シュナイダー選手は大きなミス無く走り切り、オリバー・ジャービス選手につなぎます。ピット戦略の違いもあって、順位は激しく変動しますがチームはタイヤ交換もスムーズにこなし、自分たちのペースを守り2番手まで浮上しました。

途中、各チームがタイヤ交換のタイミングを我慢してピット戦略でポジションを稼ごうとしたのですが、たまたま21号車を除く9台が同じ戦略を取ったことで我慢くらべのような状況になってしまい、逆に佐藤万璃音はタイヤ交換をして3スティント目に7番手でレースに復帰しましたが、狭いトラックで抜けないサーキットで知られているイモラを快走。攻めた走りで次々とポジションを上げ、3番手まで浮上したところでチェッカーとなりました。





●佐藤万璃音のコメント

「今回のレースは予想以上に荒れた展開となりました。チームはペース的には厳しいのがわかっていましたが、ピット作業でのミスも無く、周囲のバトルに惑わされることなく自分たちの戦略を信じて走り切ったことで、価値ある表彰台を獲得できたと思います。昨年同様のドライバーラインナップで、昨年のスバ以来の表彰台だっただけに、みんなのモチベーションが上がる良い結果でした。3位表彰台で満足しているわけではないですが、自分にとっても WEC オースティン以来の表彰台でしたし、気分は良かったですね。シリーズチャンピオンを狙っていくうえで、今回の表彰台は絶対に獲りたかったし、力強いレースができたと思います。皆さん応援ありがとうございました」

●このリリースに関するお問い合わせ：有限会社ランブラス info@ramblas.co.jp